

資料:

植物と人々の博物館 2014年の活動記録

Appendix: Activities of Plants and People Museum in 2014

1. 雑穀標本および保存種子の移管

東京学芸大学環境教育研究センターには、武井尚先生と東京腊葉会会員が整備した武井コレクションと東京腊葉会の標本約3万点を残した。インド亜大陸、中央アジア他の海外学術調査で、小林往央、木俣美樹男らが収集した標本および雑穀の栽培試験標本は山梨県小菅村の中央公民館に移管し、整理を続け、一般公開に供することにした。運搬は、大雪で遅れたが、2014年3月5～6日に実施した。

また、雑穀種子の保存系統の一部は海外収集品のため逸出することを防ぐために焼却し、他の一部は神奈川県相模原市のトランジション・タウン藤野お百姓クラブに2014年3月30日に移管して、農業法人藤野倶楽部にローカル・シード・バンクを設置した。

2. 源流祭り展示解説

展示解説は、研究員西村俊と木俣美樹男が行い、2014年5月4日に実施した。

3. 雑穀栽培講習会

伝統知伝承顧問の岡部良雄、研究員井村礼恵および黒澤友彦が2014年5月10日に実施した。その後の栽培管理は黒澤が行った。収穫物はトランジション・タウン藤野お百姓クラブに寄贈した。

4. 第34回環境学習セミナー

テーマ:

都市民が学ぶ山村の伝統的知識～トランジション・タウンと山村をつなぐ雑穀街道～

趣旨:

日本には全国にドイツ村、スペイン村などがありますが、「日本村」はありません。私たちは30年余りにわたって、日本村を再生するエコミュージアム活動をしてきました。この国の伝統的な生活文化を学ばなければ、国籍だけの日本人にすぎません。山住みの縄文文化の系譜はこのくにの生活・生業の基層にあります。自然にかかわる暮らしを学び伝えることが、このくにを過去から未来に持続させる秘訣です。

「さあ日本村」は、鎌倉幕府に有事がある際に、御家人が鎌倉街道をはせ参じる「いざ鎌倉」のパロディーです。鎌倉街道は村々から都会に向かう道路網です。今でも東京都道18号線や神奈川県道21号線は鎌倉街道とも呼ばれています。このセミナーでは都会から山村に向かう道として、「転生」鎌倉街道を「雑穀街道」として提案します。

トランジション・タウンづくりの活動は、神奈川県藤野町(旧)から、鎌倉など湘南へ、小金井など多摩へ、さらに都留など甲斐へと進展してきています。これらのトランジション・タウンをつなぐのが雑穀街道です。

雑穀は縄文時代以降、このくにの家族の食料を支え、家系を守ってきました。もう一度、持続可能な地域社会における心の食べ物の象徴として、普及再生したいと思います。

このセミナーは1984年に始めた野外教育セミナーから続く、環境教育・環境学習活動の源流です。第34回からは多摩川源流の小菅村で毎年開催します。多くの人々をつなぎ、未来に向けた企画まで話し合いたいです。(国は中央政府など国家、くには自然村落など地域社会を意味します)

日時：2014年11月8日（土）
場所：山梨県小菅村 中央公民館
主催：自然文化誌研究会、ECOPLUS
共催：エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会、トランジション・タウン藤野
後援：小菅村、日本雑穀協会、トランジション・ジャパンほか
宿泊：ご希望があれば、旅館、民宿、木下キャンプ場などを紹介
申し込み先：自然文化誌研究会（木俣）

系統を播種、栽培復活に成功した。これらの展示と加工調整の実習も行われた。

日程：

- 9：45 村内案内の希望者は小菅の湯駐車場に集合
10：00～11：30 エコミュージアム日本村／植物と人々の博物館などの案内
11：30～12：45 昼食、小菅の湯レストラン（各自、雑穀メニューほか）
13：00～17：00
1. 挨拶：中込卓男（自然文化誌研究会代表理事）
 2. 提案 雑穀街道を創ろう：木俣美樹男（植物と人々の博物館）
 3. 実践報告
 - 1) トランジション・タウン藤野のローカル・シード・バンク：末村成生（TT 藤野お百姓クラブ）
 - 2) 上野原市鶴川流域の地産品振興：白井誠一（NPO 法人さいはら）
 - 3) 小菅村における雑穀の商品開発：古菅芳勝（小菅の湯）
 - 4) 南魚沼、栃窪での棚田実践：大前純一（ECOPLUS）
 4. 座談会
- 17：30～ 交流会（宿泊希望者）

○連携行事：種市

2014年11月9日、藤野にて研究員木俣美樹男が「雑穀街道」について講義した。トランジション・タウン藤野お百姓クラブは、ローカル・シード・バンクの保存種子、宮本透と木俣美樹男らが藤野で30年ほど前に収集したアワとキビ各1